

喜望峰について

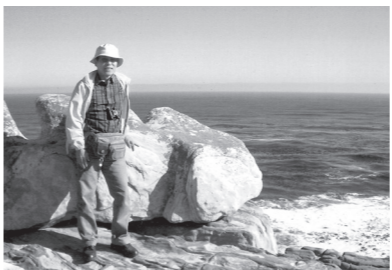
松尾 龍之介

スペインとポルトガルのあるイベリア半島の最西端にはロカ岬があり、カモンイスが書いた詩碑が建てられている。曰く「ここに陸尽き、海はじまる」。人間が大海に乗り出すようになるまでは、このような発想が意識に浮かぶことはなかった。陸が尽きるころすなわち行き止まりであり、どん詰まりであった、それが逆転した。

大航海時代の幕開けである。其の一つの理由は船が改良されたことによる。中世北欧で使われていた四角い一枚帆と、南方のインド洋やエジプトで用いられていた操縦性の良い三角帆が合体し、順風・逆風を問わず航海できる船が発達した。それはカラヴェル船と呼ばれ、コロンブスが大西洋を西へ航海した三隻はすべてカラヴェル船であった。

もう一つは時代の核となるリーダーが必要だった。ポルトガルのエンリケ王子がその役を果たした。エンリケは探検による見返りを求めるのではなく、未知そのものに惹かれるタイプの人だった。

アフリカ大陸の北西にあるカナリア諸島はローマ時代から存在が知られていたが、ポルトガル人はそこをはじめ植民地化した。しかし、それから南の海へは誰一人として航海したことはなかった。



喜望峰にて(2010年)海の彼方は南極

南下すれば次第に気候が熱くなるので人間は焼け焦げて死んでしまうとか、海が滝のようになっていると信じており、誰一人として近づく者はいなかった。しかしエンリケは毎年、次から次へと遠征隊をアフリカ西海岸へ送り込んだ。そしてそのうちの一艦隊がついに南下の限界線を克服した。

エンリケが亡くなると、事業はアルフォンソ五世やジョアン二世に引き継がれた。ジョアン二世が組織した艦隊の指揮官がバルトロメウ・ディアスである。一四八七年、ディアスの船はそれまでの誰よりも

明治二年、福沢諭吉が『世界国尽し』というベストセラーを出版し「喜望峰」を広め、以後「大浪山角」は姿を消した。

今の中国では喜望峰は「好望角」と書く。「峰」が「角」に訂正されている。日本ではこの訂正がなされず「喜望峰」のまま定着している。

(洋学史研究会会員)

スタンバック・ジャパン号によせて

荒木 忠久

昭和二十七年九月立神であった本船の進水式に、当時小学四年の私もつれて行ってもらった。翌年二月から、五島沖で中島船長と父のコンビで試運転が行われ、午前中に帰港。私は第三ドックを抜けて艀装工場へお昼を届けた。その途中、給食係がバケツにタモを携えドックの中に入り、昼のおかずを調達していた。その頃、私は飽の浦小へ通っていたが、SLが走り、どこか長閑であった。

本船は、当時世界最大級のオイルタンカーで、二万六千屯。父は、長崎訛(っ)の英語が活かされ、保証技士に抜擢。昭和二十八年三月の出港に際し、六石スーパージャオ等の積込を手伝い、処女航海の前夜に本船に招待され数人の英国人と、印度の乗組員の方など六十余名と、サロンの長円卓を囲み歓談した。そのディナーで一番びっくりしたのは、十数種類のアイスがあった事。帰り際にはキャプテンから破格のチップがあり、二度びっくりしたと父が言っていた。然しその最新鋭の船も、ボイラーが二基ともダウンし、配電盤の火災も重なり孤島に止り、オール電化の船は、俄に原始生活へ…。一番こまったのは水洗トイレ、次いで船内の電気機器は全て使用できず、船内にレンガを組み、炊事するありさま。南支那海で、二日間漂流しながら一基が復旧し、シंगाポールで十日間修理した後その船をクウェートの原油積出港へ。そこから届いた父の手紙は、油紙に掠れた独特な父の字であった。その後、スエズを抜けて英国サウサンプトン港へ辿り着く。丁度、女王の戴冠式に当り、お祭ムード一色。その時の英国の土産は、立体絵本と記憶している。

父は運が強く、支那事変・原爆・桜木町事件・比国上空で落雷・太平洋で台風の中漂流・機関室で前面火傷など色々な苦難を乗り越えて九十

アフリカ大陸を南下した末に、三日間の大暴風雨に襲われた。陸から離れ、海の水は冷たくなっていった。嵐がおさまるとディアスは船の針路を東にとった。その後北に針路を変えると不意に陸地が見えてきた。アフリカ大陸を回ることができたのである。彼はそのままインドまで行こうとしたが、食料不足と乗組員たちの反対で、涙をのんで引き返した。

ディアスは自分がめぐった岬を「カボ・トルメントソ」と改名した。だがジョアン二世がその名は縁起が悪いとし、のちに「カボ・ダ・ボア・エスペランサ」と改名した。

明から清にかけて中国布教に従事していたイエズス会士マテオ・リッチは自製の世界図『坤輿万国全図』の中に「嵐の岬」を「大浪山角」と漢訳している。「大浪山」とは何であろうか。それはケープタウンの南にあつて千メートルを超す「テーブルマウンテン」のことである。頂上が平らに見えてテーブルそっくりなのでその名がつけられた。

一方、ジョアン二世により改名された「希望の岬」は、リッチに続いたイエズス会士ジュリオ・アレニが『万国図説』の中で「喜望峰」と漢訳した。

しかし面白いことに長崎にあつて世界情報を集めた西川如見の『増補華夷通商考』には、「大浪山」も「喜望峰」も登場しない。「カボ・ダ・ボア・エスペランサ」に近い「カアボ・デ・ボウヌ・イスプランサ」として登場する。スペイン語に近いこの発音はいったいどこに由来しているのだろうか。南蛮国と最も縁が深かった長崎ならではと思わせる。仙台の経世家林子平は、安永五年の長崎遊学の際、本木良栄に会い、オランダ通詞松村元綱訳「和蘭航海略語」を写した。その中で「喜望峰」がはじめて顔を出す。その余白に「按二峰ヲ岬に改ムルトキハ正訛ナランカ」の書き込みがある。すなわち林子平は「喜望岬」の方が正しいというのである。これはもつともな指摘である。

才まで人生を泳いだ父に献杯し合掌。

〔資料〕『三菱百年史』(造船資料館刊)

(長崎出身岡山市在住)

風信

○十一月三日「文化の日」恒例により長崎市立図書館主催第九回長崎学講座開催、今年「長崎系絵画」について話して参りました。長崎の皆様は地方史研究に興味を持たれる方が多く、今年も満席でした。

○三日、今年も恒例の長崎日本協会主催、日葡関係史跡見学会として長崎開港の発端となった旧大村藩支配地横瀬浦(現・西海市)を中心にローマ少年使節中浦ジュリアン遺跡等見学。

○七日、(旧十月八日)立冬。と記してあった。いよいよ長崎地方も冬をむかえる季節になりました。寒さには御用心下さい。

○今年も、名古屋の椋山女学園高校より「平和を願う長崎」の研修旅行に行くので例年のように本会より「解説者を派遣して下さい」と連絡あり、本会より大東氏を中心に六名の皆様にお願ひした。

○長崎商工会議所より、来年も「第十二回・長崎歴史・文化・観光検定試験」を一月二十九日に実施するので其の準備会に出席するようにと連絡あり、出席。○「長崎検定」は東京・京都等の検定会と共に全国的に有名となり、「長崎検定受験会場」を平成二十六年より東京に受験会場を設け、前回の東京での受験者数は四十二名であった。長崎検定には一級・二級・三級があり、昨年度までの三級合格者二、六〇〇名に対し、一級合格者は三三名の由。但し特別試験の「親子でチャレンジ長崎通」は県内の小中学生とその保護者が対象で受験料無料なので、「お申し込み下さい」との事。試験申し込み期間は、十一月二十八日より翌年一月六日まで。

○今月御寄贈いただいた書籍

一、西日本文化協会より、『西日本文化No.480』今回は福岡県糟屋地区を中心にした史跡名勝の論考で、我が国、稲作の始原とされる「夜臼式土器」の論考にはじまり相島積石塚群、光正寺古墳、阿恵遺跡等二十項目の研究発表があり大いに参考になりました。

一、三菱長崎造船所原水協より『三菱の兵器生産』。昨年は被爆七〇年、その原爆に耐えた長崎三菱造船所の戦時中の歩みが語られ、次いで現在の日本が大きく変わろうとしているので、日本の未来を考えようという語られていた。(三菱長崎造船所原水協発行)

長崎歴史文化協会 研究室

TEL 八二二一 一五四〇
十八銀行公会堂前出張所 2F

